

令和7年度 第5回

印西市総合教育会議

会議録

令和7年9月19日

令和7年度 第5回 印西市総合教育会議 会議録

日時：令和7年9月19日(金)

14時00分～16時30分

場所：印西市文化ホール 多目的室

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 議題
 - (1) 印西市コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）
 - (2) 学校づくりのビジョンを共有するコミュニティ・スクールを創る
講師：柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志 様
 - (3) 地域とともにある学校づくりの推進に向けた、
コミュニティ・スクールの在り方とは
(ディスカッション)
4. 閉会

出席者(6名)

印西市長 藤代 健吾

印西市教育委員会 教育長 渡邊 義規

印西市教育委員会 教育長職務代理者 寺田 充良

印西市教育委員会 委員 豊田 光弘

印西市教育委員会 委員 長尾 香奈

印西市教育委員会 委員 屋敷 毅

講師

柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志 様

市長部局

副市長 野崎 崇正

企画財政部企画政策課長 武藤 誠

企画財政部企画政策課課長補佐 草間 喜克

企画財政部企画政策課政策推進係長 藤代 悠子

教育部

教育委員会教育部長 伊藤 章

教育委員会教育部教育総務課長 鈴木 圭一

教育委員会教育部教育総務課課長補佐 木崎 和博

教育委員会教育部教育総務課総務係長 中野 竜一

教育委員会教育部学務課長 加藤 知己

教育委員会教育部指導課長 岡田 光靖

教育委員会教育部指導課副参事 深澤 淳一

教育委員会教育部教育DX専門官 松本 博幸

教育委員会教育部教育センター所長 斉藤 睦雄

教育委員会教育部生涯学習課長 中嶋 広

教育委員会教育部生涯学習課 推進係

(午後2時00分)

企画政策課長
(進行)

それでは、ただいまから令和7年度第5回印西市総合教育会議を開会いたします。

会議の議長は、印西市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、藤代市長をお願いいたします。

藤代市長
(議長)

はい、それでは皆さんこんにちは。

また、改めまして、梅津先生におかれましては、今日は本当にお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。

今回、令和7年度の第5回の印西市総合教育会議ということでして、来年度に向けて策定を今進めております、(仮称)印西市教育ビジョン。こちらの検討の中で、今日は、地域とともに学校を作っていくという文脈でコミュニティ・スクール等について、議論をさせていただきたいと考えております。

印西市の状況で言うと、今年度から、まずは印西中学校区から、今、コミュニティ・スクールを1校立ち上げたところで、まさに緒に就いた段階であります。

いろいろと今進めている中で、我々も課題も感じているところがありまして、昔は、その地域の方々が入ってきた、というよりはもう地域の中に学校があって、地域の中で、地域の方々と一緒に、こどもを育てていくというのが当たり前だったところから、各学校で、それは当然ながらいろいろな事情があるにせよ、そういった状況になりつつあるのかな、というふうに感じていまして、その中で、改めてこの印西市の地域の皆さんと一緒に学校、こどもたちの未来をともにつくっていききたいという思いの中で、今コミュニティ・スクールを進めているわけなのですけれども、いろいろと今年やってみて、課題も見えてきたところもあるかと思えますし、さらに梅津先生の方から、先進自治体での取り組みの事例をご紹介いただきながら、これから印西として、どういう方向に向かっていくのかというところを議論させていただければという次第であります。

前半、まず、簡単に印西市のコミュニティ・スクールの状況であるとか課題について、事務局の方からお話いただいた後、梅津先生の方から60分ほど、ご講演をいただければと考えております。

それではまず、担当課の方から印西市のコミュニティ・スクールの現状について、ご説明をお願いいたします。

生涯学習課長

生涯学習課長の中嶋と申します。

コミュニティ・スクール関係業務を生涯学習課が担当しておりますので、本日は私の方から、本市が推進していくコミュニティ・スクール及び学校運営協議会制度につきましてご説明させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、コミュニティ・スクールの定義でございます。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置している学校のことを指します。

言い換えますと、学校運営協議会制度を導入した学校が、コミュニティ・スクールということになります。

次に、学校運営協議会の概要でございます。

学校運営協議会とは、法律に基づいて設置される合議制の機関でありまして、教育委員会から任命された委員が、一定の権限と責任を持って学校の運営や必要な支援について協議を行うものでございます。

次に、学校運営協議会制度が求められる背景でございますが、教育を取り巻く環境の変化、社会の動向、教育改革の進展などが挙げられます。こうした状況の中で、学習指導要領にも、社会に開かれた教育課程が基本理念として正式に位置付けられました。

その結果、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールの推進が教育の方向性と深く関わる重要な施策となっているところでございます。

学習指導要領にも位置付けられました、社会に開かれた教育課程でございますが、社会に開かれたとは、こどもたちが地域や社会と関わりながら学び、自分の力で、人生や社会をより良くしていくことができるという実感を持てるようにすることでございます。

このような実感は、変化の激しい現代社会において、こどもたちが困難を乗り越え、未来に希望を持って前向きに生きる力に繋がるものとなります。

そのため、これからの学校には地域や社会と連携して行う教育活動がますます重要となりますので、こうした背景を踏まえて、社会に開かれた教育課程の考え方を支える仕組みとして、学校運営協議会制度の取り組みが求められているものでございます。

それでは、学校運営協議会の機能役割についてです。

学校運営協議会は、地方教育行政組織及び運営に関する法律に基づき、次の3つの役割を担っております。

- ①校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- ②学校運営に関して、教育委員会及び校長に対して意見を述べる。
- ③教職員の任用に関して教育委員会規則で定められた事項について教育委員会に意見を述べることができる。

さらに印西市では印西市学校運営協議会の設置等に関する規則に基づき、④としまして、「学校の運営状況について、毎年度1回以上の評価を行う」という、4つめの役割も担うこととしております。

この学校評価を取り入れた理由でございますが、学校の運営の質を高めるために計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを確実にまわしていくことができるようにするためでございます。

地域と学校が協力しながら教育の質を高めていくためにも、この仕組みは非常に重要であると考えております。

ただし、これらの役割については、文面だけでは誤解を招くことが懸念されるところでございまして、例えば、協議会が校長よりも強い権限を持

つのではないか、教職員の任用に関する意見が人事に影響するのではないか、といった点でございます。

そこで、具体的な例によりまして説明させていただきますと、協議会での学校運営の基本方針の承認ということにつきましては、校長が示す、目指すこども像や教育目標、学校経営ビジョンなどを協議会の委員と共有・共通理解のもとで、その実現に向けた支援やアイディアについて意見をいただくものでございます。

任用に関する意見という点につきましては、外国語活動に力を入れているので、専門性のある先生がいるとよい、若手の先生が多いので、中堅でリーダーシップのある先生がいると組織が活性するのではないか、といった学校と地域が協働して、教育の質を高めていくための支援的な意見をいただくものでございます。

このように学校運営協議会は、委員の共通理解を得ながら、意見をいただく場でありますので、最終的な学校運営の権限は校長先生にあるということになります。

続きまして、学校運営協議会の設置形態でございます。

学校運営協議会は原則としまして、学校ごとに設置することが定められておりますが、複数校の学校運営に関して連携を図る必要がある場合や、学校、地域の実情に応じて柔軟な対応が求められる場合には、複数校まとめて1つの協議会を設置することも可能でございます。

このような柔軟な設置形態により、地域の教育資源や人材を効果的に活用し、小中連携や地域全体での教育支援が可能となることもございます。

具体的な設置形態としましては、単独設置として1校ごとに協議会を設置する形態や複数校による合同設置としまして、中学校区の学校による合同設置、中学校区の一部の学校による合同設置がございます。

次に、本市の学校運営協議会委員の構成でございます。

本市の委員は18名以内と定めており、次のような方々から教育委員会が任命することとしております。

(1) としまして、地域の実情を理解し、学校との連携協働に積極的な地域の住民。

(2) こどもたちの育ちを身近に見守る立場から、学校運営に関心を持つ保護者。

(3) 放課後の学習支援や地域行事など学校と関わりのある活動を行う方。

(4) 教育や福祉、地域づくりなどの分野で専門的な知見を持つ学識経験者。

(5)(6) ですが、学校運営に直接関わる立場としまして、校長及び教職員。

(7) これら以外でも、学校運営協議会の目的に照らして適任と教育委員会が認める方。

このように、多様な立場の委員によって構成することで、学校と地域が協働して教育活動を支えるための基盤となるよう規定しているところでござ

ざいます。

本市の設置状況についてです。

本市では令和7年度、木下小学校・大森小学校・印西中学校におきまして、中学校区単位での合同の学校運営協議会を先行設置したところでございます。

今後、他校におきましても、順次導入を進め、令和10年度末までに市内すべての小中学校への設置を目指しているところでございます。

次に、今年度先行導入しました、印西中学校区学校運営協議会についてです。

印西中学校区の方針は、地域の方々と連携しながら、学校運営に関する協議・熟議を行い、こどもたちが学びやすく、先生方が教育に専念しやすい環境づくりを進めることとしております。

主な活動内容は、印西中学校卒業時までには育てたいこども像や目指す学校像に関わるビジョンを共有し、その実現に向けた取り組みについて協議すること、学校運営や、そのために必要な支援について協議すること、学校関係者評価を行い、改善に向けた支援について協議することでございます。

続いて、令和7年度印西中学校区学校運営協議会の実施予定でございます。

今年度は年4回の協議会開催を予定しております。

第1回は5月に実施し、各学校の学校運営方針を承認。第2回は7月に実施し、テーマ「中学校卒業時までには身につけたい力」に基づく熟議を行っており、年度内にあと2回予定しております。

なお、定例の協議会につきましては、年4回の開催計画となっておりますが、協議会委員の皆様には、学校行事への参加や授業参観などを通じまして、こどもたちの学びの様子をご覧いただいているところでございます。

こうした機会を通じて、学校運営の教育の質の向上に向け、ご協力をいただいているところでございます。

ここで学校運営協議会において行われる熟議についてでございます。熟議とは、保護者、教員、地域住民など異なる立場の人々が集まり、共通の目的に向かって協力するためにじっくり考え、話し合う対話のプロセスを指すものでございます。

学校運営協議会における熟議は、学校と地域が教育のビジョンや方向性を共有するものとして重要な役割を担っております。

関係者が集まり、課題について学び、意見を交わすことで、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まることとなり、その結果、それぞれの立場に応じた解決策が見えてくることとなります。

そして、このプロセスを通じて参加者一人一人が納得し、みずからの役割を前向きに果たそうという意識が育まれて参ります。

こうした熟議を継続的に重ねることで、学校と地域との間に信頼関係が築かれ、こどもたちの学びや育ちをともに支える協働の土台が形成されて

いくことに繋がって参ります。

今後の目指す方向性についてです。

今後は、これまでご説明して参りました、地域とともにある学校づくりをめざし、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進を進めていく必要がございます。

そこで、地域学校協働活動についてご説明いたします。

地域学校協働活動につきましては、学校と地域保護者などが双方向で関わり合いながら行う多様な活動のことを言います。

具体的には、登下校時の安全確保や見守り活動、学校環境の整備、学習支援、読み聞かせ、図書ボランティア、PTA活動、家庭教育や子育て支援、学校行事への地域の参加、地域行事への学校の参加、などの活動でございます。

これらの個別具体的な活動を通じることによりまして、学校と地域の方々が緩やかなネットワークや学びによって繋がりが合い、こどもたちの育ちをともに支える協働の関係が築かれていくものとなります。

先ほども申しましたが、今後目指す方向性といたしましては、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進がございます。

スライドにある、いんザイ君のイラストを例にいたしますと、頭が学校運営協議会、手足が地域学校協働活動と表現できるものと考えております。

これは頭である、学校運営協議会で、共有されましたビジョンに基づきまして、手足である地域学校協働活動が具体的な支援につなげていく、というイメージでございます。

つまりビジョンである頭と実践である手足が連動することで、地域と学校が一体となってこどもたちの育ちを支える仕組みが構築されていくものとなります。

一体的推進におきまして大切なことですが、繰り返しとなりますが、地域と学校が、教育課程や目標を共有し、協議、評価、改善を通じて地域とともにある学校づくりを目指していくことでございます。

この考え方を制度の形だけではなく、実際の教育活動や地域との関係性の中で根付かせていくことが重要と考えております。

学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進することによりまして、学校、地域、保護者が力を合わせ、互いに信頼し合いながら、こどもたちの成長を支えることがより期待できるものとなります。

こうした取り組みを根づかせていくことで、地域とともにある学校づくり、地域コミュニティの活性化が実現されていくものと考えております。

今後は順次、学校運営協議会を設置し、学校と地域が目標やビジョンを共有しながら、児童生徒、教職員の双方にとってよりよい教育環境を構築していくことを目指して参ります。

また、地域の意見を学校運営に反映し、地域学校協働と連携協働することで、社会に開かれた教育課程の実現を推進して参ります。

なお、これらの取り組みを一体的に推進することで、地域とともにある

学校づくりの実現を目指していくこととなりますため、今後は、地域学校協働活動推進員の存在が重要となるものと考えております。

印西市の現状についてです。

今年度、印西中学校区で、学校運営協議会を先行導入し、次年度以降、他校におきましても順次導入を予定しているところではございますが、他方、地域学校協働活動及び本部、推進員につきましては、現在のところ未組織、未活動の現状がございます。

また主な課題としまして、多様な人の参画をどのようにして得るか、具体的な活動にどのようにつなげていくか、制度を形骸化せず、どのように継続させて運営していくか、さわやかコミュニティ推進委員会など、現存する学校支援団体との再構築を含め、学校運営協議会との連携をどうしていくか、地域の方々の負担軽減に向けた取り組みをどうするか、など、これらの取り組みについては、丁寧な対応と柔軟な仕組みづくりが求められているところでございます。解決していくことが必要となっているところでございます。

本市では、今後の取り組みといたしまして、以下の2つの柱を中心に進めて参ります。

まず1つ目、体制の整備です。

地域住民と学校関係者が、児童生徒や学校を取り巻く課題、学校運営への支援のあり方について協議を行う学校運営協議会の設置について着実に推進して参ります。

そして2番目、制度の意義・理解促進に向けた周知です。

学校関係者に対しましては、校長先生を対象とした研修会を開催し、学校運営協議会制度の趣旨、組織の構築の手法などについて理解を深める機会を設けて参ります。

2つ目。保護者に対しましては、制度導入済みの学校におきまして、保護者会の場合などを活用し、制度の概要や協力の必要性についての説明を行い、理解の促進を図って参ります。

3つ目。地域住民に対しましては、制度導入済みの学校におきまして、「コミュニティ・スクールだより」を作成し、地域回覧などを通じて制度の趣旨、及び取り組み内容について周知を図り、地域住民の理解と参画を促進して参ります。

このように各所各機会におきまして、制度の意義、理解促進を図ることにより、先ほどの課題が解決できるよう努めて参りたいと考えております。

以上で本市におけるコミュニティ・スクールの取り組み等についてのご説明を終了させていただきます。ありがとうございました。

藤代市長
(議長)

はい。

ありがとうございます。

今まだ緒に就いたばかりなので、あまりこう具体的な話というのは難しいのだと思うのですが、協議会はどんな方々とどんな議論をしたのか

というところ、もう一段詳しく教えていただくと皆さんイメージしやすいのと、あともう1つ、地域学校協働活動、どういったものを具体的に想定されているのか、誰とどんなことをやるのかとか、今までも多分、もうすでにやっていること等々あるとは思いますが、どんなことを想定されているのか、もう一段具体的に、何か皆さんの情景が浮かぶような形でご説明いただけるといいのではないかなと思っています。

課長に限らず、事務局の方でお話できる方がいらっしゃれば。

生涯学習課長 1回目2回目と学校運営協議会を開催しておりまして、1回目は各小中学校の学校運営の基本方針の承認を得たところでございます。

第2回目につきましては、中学校卒業時までにつけたい力について、委員の皆様で協議していただいております。委員の構成につきましては、学校長、教職員、保護者の代表、地域の代表、そういった方々で話し合いをいただいております。

藤代市長
(議長)

地域の代表はどんな方々ですか、イメージとしては。

もともと校長先生をやっている、地元にお住まいの方とか、青少年相談員であるとか、昔で言うところの青年団みたいな活動されていて、地域で自営業をやられていて、今、地域活動にも熱心にされている元PTAの会長さんとか。

そういう感じの方々ですよ、きっとね。

生涯学習課長

元学校の校長先生とか、地域で自営業なされている方。

まさしくそういった方に担っていただいております。そういった方々で協議をいただいております。

藤代市長
(議長)

印西中の1回目は私も参加させていただいていて、冒頭の方なのですが。

もともと何で印西中が最初かというと、一番コミュニティが、この地域の方々と一緒に学校を作っていくというのが根づいている。

まさにこの市役所があるような場所の近くにある学校なのですが、というところで、比較的そういうコミュニティがある中で立ち上げがしやすかったという背景があるのかな、と理解しているところです。

実際議論してみてどうでしたか。どんな感じでしたか。

ざっくりなのですが。

うまくいった感じなのか、ちょっとみんな様子を見合っている感じなのか、手応えがあったか、ちょっと課題を感じているか。

生涯学習課
推進係

はい。

印西中学校区の学校運営協議会、これまで5月に1回目と、7月に2回目を実施しております。

1回目は学校運営協議会、学校運営方針の承認を行って、第2回目

は、印西中学校区の学校運営の基本方針が、こどもたちが学習しやすく、それから先生方が、教育に専念しやすい環境づくりを進めていくっていう方針に基づきまして、第2回目の学校運営協議会では、熟議を行いました、印西中学校卒業時までには身につけたい力、どのような力をつけるのかということ、5人ぐらいのグループワークを、学校ごとに分かれて行いまして、それで熟議を行って、共有して、まとめたということです。

第3回目につきましては、11月に予定しております。

そこでは、先生方が、教育に専念しやすい環境づくりをするためには、地域、保護者がどのように関わるのかということについて、同じような形で熟議をして、まずは学校のことを知ってもらうことから、今年度始めているところでございます。

藤代市長
(議長)

盛り上がりましたか。

生涯学習課
推進係

そうですね。第1回目のときは少し堅苦しい雰囲気があったのですが、熟議を通してですね、やっぱり小グループで話し合うことによって、お互いの意見を交換することによって、初めてお互いを理解し合える状況になりましたので、かなりリラックスした雰囲気、フランクな雰囲気で話し合いが進んだと思っています。

藤代市長
(議長)

やっぱりこれは地域の人ならではの意見だな、みたいなものは何かありましたか。

何かもしも1つでも、例えば、今、言えそうであれば。そういうのが大事だと思うのです。

生涯学習課
推進係

地域ならではのいうわけではないのですが、重要だと思うことを何点か挙げさせていく中で、当然基礎学力、挨拶が大事、判断力が大事、っていう中の1つで、郷土愛が大事なんじゃないかっていうところで、具体的な内容はちょっと出ないのですが、そういった意見が上がっています。

藤代市長
(議長)

結構あのお祭りがいまだに地域ごとに残っている地区で、山車なんかも出るのですよ。

その時期になると1回市外に離れた子たちも戻ってくるっていう、結構地域愛が深い地域でありますからね、この辺はね。

わかりました、ありがとうございます。

地域学校協働活動についてです。

印西中学校区で想定している具体的なものがもしあれば。多分これ、大分地区ごとに変わってくるのでしょうかね。例えば屋敷委員の地元の本埜中学校区だったりするとまたメンバー変わってくるので、やることも変わっていくのだと思うのですが。豊田委員の地元の平賀小なんかも大分違ってくるのでしょうかね。

生涯学習課
推進係 これも具体的にそこまでまだ至ってないのですが、放課後の学習の支援
だとか、学校の環境整備だとか、一般的な話ではあるのですが、そういつ
たものが想定されます。

藤代市長
(議長) わかりました。
今やってみて感じている課題とか何かありますか。
説明いただいていると思うのですが、実際やっていて困っていること
とか、悩んでいることとか、担当者として。

生涯学習課
推進係 担当といたしましては、熟議の場においては多様な意見が出たり、和や
かな雰囲気が進められてはいるのですが、それをやっぱり地域全体にどの
ように広げていくかというか、周知していくかとか、その点が課題にはな
るかと考えています。

藤代市長
(議長) わかりました、ありがとうございます。
他に、委員の方々から今確認しておきたいことはありますか。
豊田委員の方から。

豊田委員 教育委員の豊田と申します。
印西中学校区の学校運営協議会につきましては、今、市長の方からいろ
いろ質問をしていただいて、大変理解できたところでございます。
私の方から1点質問なのですが、令和5年の学校運営協議会の設置率を
見ますと、文科省の調査ですと、6割ぐらいが単独で設けられているとい
う結果が出ていますのですけれども、今回、当市の場合は中学校区で設けら
れていると。
今後、単独でいくのか、それとも、現在の印西中学校区のように複数の
形で進むのか。おそらく印西中の結果の検討を行って、また考えがいろい
ろ変わってくるのではないかと思います。今後の方向性について、何か
ございましたら教えていただきたいと思います。

藤代市長
(議長) 事務局の方からよろしいですかね。

生涯学習課長 令和8年度以降、他の中学校区においても順次行っていく予定ですが
けれども、その際に、中学校単位になるか、各小学校中学校になるかという
のはこれから学校の方と協議しながら進めていくことになりますが、計画
では令和10年度末までに、すべての小中学校に設置するという計画でござ
います。

藤代市長
(議長) これ、小学校単位なのか、中学校区単位なのかっていうどっちにするか
というときの判断の基準みたいのは何かあるのですか。
現場の声というのがあるのだと思うのですが、現場の方々が声を発す

るときも何か理由があるのだと思うのですが。何か思い当たるところで
もし、あれば。

生涯学習課
推進係

結局は学校と相談しながらというところではあるのですが、要因として
は、学校の規模であるとか、そもそもの地域性として統一性があるかと
か、そういったところが判断材料となっています。

藤代市長
(議長)

例えば、船穂中学校区だと小規模の学校と規模の大きい学校があって、
両方ある中では少し学校ごとに細かく分けていったほうがいいのではない
か、とかそういう判断になっていくということなのですか。1例で言う
と、例えば。

生涯学習課長
推進係

例えばで言うと、その通りでして、今後共通の課題だとかに向かって取
り組む上で、そもそも地域性が違うとその課題設定がうまくいかないと思
うので、そこは分けたほうがいいのではないかなとは思っております。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

豊田委員なんか今の点で大丈夫ですか。追加でもしさらにあれば。

豊田委員

はい。

今お話を伺いまして、結局、例えばニュータウン地区ですと、さほど何
ですかね、学校ごとに、語弊ありますけど、変わりがないみたいな感じな
のですけれど、私ですとか、屋敷委員みたいな、旧印旛村ですとか、旧本
埜村の方は、なかなかそういった生徒の数も少ない。そうしますと、協議
会に携われる方もなかなか発掘が難しいのではないかと思いますので、そ
ういったところで、より地域に密着する形ということは何が一番いいかつ
ていうことを、今後、是非とも検討していただければと思います。

以上でございます。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

これ結構大事な論点で、多分例えば印旛中学校区だと、いには野小と平
賀小と六合小と全然人数規模が違うじゃないですか。

立地も全然違うので、本当は小学校区ごとに分けたほうがいいのでしょ
うけど、そうすると特に平賀小、六合小は担い手がいないということにな
るのですね、きっとね。

ちょっとその辺り悩ましい課題ですけど事務局の方でもちょっと検討の
ときに勘案いただけるといいかなと思います。スケールメリットがね。

他にいかがでしょうか。

はい。どうぞ。長尾委員の方から。

長尾委員

ご説明ありがとうございました。

まず、印西市の学校運営協議会委員の構成、18名以内ということだっ

たのですが、こちらはある程度公募があってその中で、教育委員会が任命するのか。

この木下小学校、大森小学校、印西中学校区でスタートされたということで、まずここはどうだったのかということと、今後はどうされていくのかな、ということが気になったのと、あとは自治体によっては、教職員全体でこの意見を共有するために持ち回りで教職員の先生方がこの協議会に参加されるという、そういうケースもあるみたいなんです、印西市はどういうふうな形でやっていかれるのかなということが気になりました。

(7) でその他教育委員会が必要と認めているものの中に、生徒は該当することもあるのかなということが気になります。

この協議会が第2回まで終わっているということなのですが、今後この、年に4回が決まっているのか、また、どの時間で、どこで開催されるのかというのは、周知はされるのかなと。もし、周知されるのであれば、もう少しこの市民の理解や信頼構築のためにも良いのではないかなというふうに思いました。

ご意見をいただければ幸いです。

藤代市長
(議長)

それでは事務局の方から。

生涯学習課
推進係

委員の選出方法については、現状は校長先生と相談して、推薦という形をとっています。ですので、現状は公募という形はとっていないです。

というのも学校の理解を経た上で進めてくので、現状は学校推薦という形をとっております。

2点目で、教員が持ち回りで参加するということについては、委員としては、その18名以内というのは決めてしまうものなので、それを例えば見てもらうとか、そういった意味では、参画というか、見て感じてもらうという方法としてはありなのかなと考えています。

3点目が、生徒が委員になれるかについても、未定ではあるのですが、同様に活動を見てもらうとか、そういった意味では周知に繋がるとは考えています。

今後の協議会についての開催周知等も、未定ではあるのですが、その方法としては、開いて、多様な人に見てもらうっていうのは、重要な点かなとは考えております。

以上になります。

藤代市長
(議長)

だから、少しオープンというのは1つキーワードなのかもしれないですね。今日のこの場も傍聴が可能になっていて、多数の方々がいらっしゃっていますけど。

今のところは何か傍聴とかというのは特に可にはしていないのですか。協議会とかの場というのは。

生涯学習課
推進係 現状は、はい。

藤代市長
(議長) わかりました、ありがとうございます。
何か追加で。寺田委員の方から。

寺田教育長職
務代理者 コミュニティ・スクールの創設というのはすばらしいことだと思うんで
すよ。
この協議会の委員の選択とですね、運営にかかる年間日数はどのぐらい
ですか、日にちは。

藤代市長
(議長) 事務局の方からどうぞ。

生涯学習課
推進係 すみません、確認させていただきたいのですが、開催日数とかではなく
て、準備にかかる日数とかそういった趣旨ですか。

寺田教育長職
務代理者 まだ実験中ですから、日にちは年間計画は立っていないのですか。

生涯学習課
推進係 開催日数で言えば4日間というのは決まっております。

寺田教育長職
務代理者 そうですか。
別の話から言って申し訳ないのですが、印西中の30周年記念のとき
に同窓会を立ち上げて、そのときに海外交流を始めたのですよ。それが全
体に広がって今、印西市の学校の海外交流の中心になっているもので、今
回、印西中学校区が実験的といいますか、やってもらって成功していただ
ければ、印西市の学校全部に広がると思うのですよ。
ぜひ頑張ってやって欲しいと思いますよろしくお願いします。

生涯学習課
推進係 円滑な導入をできるよう（努めて参ります）。

藤代市長
(議長) はい。
生涯学習課はもうすでに大分頑張ってくれています。そこはご安心いた
だいて、ちゃんと寺田委員の思いを、受けとめながらやっていきます。

寺田教育長職
務代理者 継続は力なりと言いますから、立ち上げるのは簡単ですけど、どうやっ
て継続していくかが問題だと思うのですよ。
今後とも努力してください。よろしくお願いします。

生涯学習課
推進係

努力してまいります。

藤代市長
(議長)

他はよろしいですか。
はい、どうぞ豊田委員。

豊田委員

最後に1点、また確認をさせていただきたいのですけれども、先ほどの説明の中で、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、というようなお話を伺ったと思うのですけれども、そういった中で地域学校協働活動推進員の方の選任っていうのは、これは、今後されていくのだと思うのですけれども、これどちらが、例えばコミュニティ・スクールが先なのか、地域学校協働活動が先なのかというところがよく理解できないのですけれども。

あまり学校自体に負担がかかるのであれば、地域学校協働活動推進員という方を早く任命されて、動いていただければよろしいのではないかと思います。思うのですが、その辺は私の認識がまだはっきりしてないところですが、例えばそれには募集ですとか、そういったものも、必要になってくると思うのですが、そういった予算的措置だとか、早めの手だてみたいなものが必要かと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

私の考えが間違っているかもしれませんが、よろしくお願いします。

藤代市長
(議長)

では、事務局の方から。

生涯学習課
推進係

推進員の設置については、検討事項でありまして、まだ制度化はされていないので、制度化に向けて今動いているところです。

おっしゃっていただいた通り、報酬等を予算化した上で、責任を持って取り組むっていう意味では、報酬を支給するっていうのは重要だと考えていますので、そのような方向で制度設計は考えています。

藤代市長
(議長)

タイミングで言えばですが、コミュニティ・スクールを設置した後に任命するっていうか、委嘱するっていうか、なるのですか。

生涯学習課
推進係

望ましいのは、学校運営協議会の委員を委嘱すると同時に、推進員を委嘱するというのがいいとは思いますが、現状制度化ができてないので、それは現時点においては、後からの委嘱にはなります。

先ほどの質問で、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動、どちらが先かというような趣旨のお話があったかと思うのですが、そういった意味では学校運営協議会、先ほどの、説明の中で頭に当たる部分、そのビジョンだとか目標をまず作ることが何より大事だと思うので、そういった意味では協議会が先にあって、それに沿った活動という意味で協働活動が後に来るものかとは考えております。

以上になります。

藤代市長
(議長)

よろしいですか。
ちょっとまだあれですか、腑に落ちてないですか。

豊田委員

はい。

今お話伺って理解しようとしておりますけれども、協議会を立ち上げるにしても、先ほどのお話、いろいろなネットだとか見ているとやっぱり学校の負担というのがかなり多くなるのではないか、というふうに考えます。

そういった中で、お手伝い的な方がいらっしゃった方が、スムーズに進むのではないかと思います、意見を述べさせていただいたところでございます。

制度化がもちろん、先行して行われるのは当然のことでございますけれども、そういった趣旨で発言をさせていただきました。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

現場の負担感というのは、非常に重要な論点だと思いますので、ちょっとその対応も後程、梅津先生のご講演を踏まえた上でご議論させていただきたいと思います。

前半が思いのほか延びてしまいましたけれども、ここから梅津先生の方からお話をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

【講演】

講師：柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志 氏

演題：学校づくりのビジョンを共有する
コミュニティ・スクールを創る

藤代市長
(議長)

梅津先生、ありがとうございました。

大変勉強になりました。

すごいというのが、多分皆さん、ここにいる全員なのかなと思うのですけれど、ちょっと少し休憩をとりましょうか。

手元の時計で55分まで少し休憩をとらせていただいて、それでそのあと質疑応答から入らせていただきながら後半の議論を進めていきたいと思ひます。

一旦休憩させていただきます。

(約10分間休憩)

藤代市長
(議長)

はい、それでは再開をさせていただきます。

今、休憩時間中も先生を取り囲んでちょっとお話を聞かせていただいていたけれども、おそらく皆さんいろいろと質問もあろうかと思いますのでこれから4時半ぐらいまで一応、総合教育会議の時間をとっていますけれども、まずは質問をいろいろ伺いながらちょっと今後の市のコミュニティ・スクールのあり方について議論を深めていただければと思います。

質問のある方は教育委員の方でも事務局でも構いませんので、お願いをいたします。感想とかコメントでも構いませんので。

長尾委員どうぞ。

長尾委員

梅津先生、大変興味深いお話をありがとうございました。

市長も先ほどおっしゃっていたのですが、コミュニティ・スクールっていうのが、この学校運営協議会があるところっていうそれで、学校運営協議会は熟議をする場だ、みたいな感じのところから、私のイメージではちょっと堅いイメージもあったのですが、いざ、先生が柏市で、このコミュニティ・スクール、この映像を見させていただいたりとかして、すごく面白いものなのだなということがよくわかりました。

こどもたちが受動的ではなく、能動的に学びを進められている姿が見られたりとか、あとは地域の方たちと繋がっていくというところがとても素晴らしいなというふうに思いました。

ちょっと質問なのですが、先生が先ほどおっしゃっていた地域学校協働活動本部とか事務局集会っていう言葉が出てきたのですが、これがいわゆるその学校運営協議会の場なののでしょうか。

あと、柏市はやはり教育委員会がこのメンバーを選出、任命されているのでしょうか。

梅津氏

メンバーの選出については、校長が推薦して、教育委員会が認めるっていう形で、印西市さんと同じ仕組みになっています。

学校運営協議会の開催回数は、柏市の場合は4回までは謝礼が出ますよと。何回開催してもいいですけど、4回分の謝礼は用意されているということで、土小学校などでもちょっと多めに開催しています。

地域学校協働活動本部っていうのは、その運営協議会の人たちも入りながら、さらにいろんなボランティアの方々が入って、要するに実働部隊ですよ。実働部隊の方々の運営調整をしていくっていう形でやっております。

単独校の場合は運営協議会の方々が、ある程度人数が8人とか9人いますので、その中で、話し合いがと思っていますけども、今、富勢中学校区でやった場合には、うちの学校の運営協議会が4名しかいらっしゃらないので、4人だけだといろいろとまだまだ足りないんで、そこにメンバーを足して、地域学校協働活動本部という形で事務局としてし、本校でいうと直接的な運営協議会みたいな機能を持ってもらって進めているっていうところでございます。これが順当なのかどうかっていうのはね、あれですけ

どそういう形で現状を組んでいるというところです。

藤代市長
(議長)

よろしいですか、今の点について。

長尾委員

はい、ありがとうございました。

すみません、お伺いしたいのですが、先生方も、やっぱりあの、かなり生徒たちの学びを進めていく、地域の方たちと繋がっていくっていうので、かなり先生方も頑張ってもらってるのだなというふうに感じたのですが、先生方の負担としては、どうでしょうか。

梅津氏

大きく変わるの、大きく変えるのって大変なですよ。それは、変えることは大変。ただ、先生方はそれが大変なところがありますけれど、そこで変わっていったことによって、例えばここで話をしていたのですが、2年生が学区探検に行きます。去年のときは、学区探検、準備からもう付き添ってくれる人に来てもらった方がいいですよと、こどもたちがいろいろと聞きたいことをメモしたりとかするのを、周りの大人がたくさんいると、いいですよって。

でも、そういう経験がないから、いや、いいですと面倒くさくなります。となると思います。

だけど、去年実際やってみて、付き添ってもらって、そのあとのまとめのところに少し関わってもらったら、こどもたちが、先生先生じゃなくてそこにいる大人たちに聞いてやれるっていうことがわかったので、今年はもう最初から地域の方に入ってもらって、地域の方もご都合のつく日がいいですっていう形で、いつといつといつの何時間目にありますって。

そうすると、来ていただいて、こどもたちの間を回って、もっとこんなことも聞いていいのではないかと、みたいなアドバイスをしてもらおう。

そうすると先生たちが、楽って言うと変だけれどもこどもにとってすごくよくなるわけですね。

自分も関わるこどもも、中心的に見るこどもが、絞られてきますから、結果としては、やりがいにつながっていくということになるかなと思います。

です、やはり先生、最初は大変です。でもそこを乗り越えると違う世界が見えてくるっていう。土小学校の3年目のときに、うちの職員が自分の子を通わせたい学校になってきたって、土小に自分の子を通わせたいって言ってくれたのですね。

これは、私も感動しました。

藤代市長
(議長)

他にいかがでしょうか。

寺田委員どうぞ。

寺田教育長職務代理者

柏の地域も印西地域もちよっと似ているところがあると思うのですが、ニュータウンで急激に人口が増えた地域と過疎化している地域があるのですが、印西中学校の場合は地域のボランティアをやれる人はいると思うのですが、ニュータウン地域はほとんどがサラリーマン家庭だと思うのですよね。

そうすると地域の協力者を探すのが非常に難しいのではないかと。それと大規模校ですから、どういうふうにしたらいいか、その辺を伺いたいです。

梅津氏

これは、無責任なことは言えないので何とも言えません。

確かに柏の葉小学校とかですね、田中北小学校、もう1000人を超える学校があります。

ただ、私ももし柏の葉小学校の校長になったらって考えたときも手順も同じで行こうと思っています。教育ミニ集会で、地域を巻き込んでいく、それぞれのその地域の人たちも昔の地域の人達もいるし、要するに新住民の方々、というか、本当にでもいろんな立場の方々がいろんな形で集まっていたかと、きっといろんな熟議ができるかなというふうに思いますので。

柏の葉を考えたときには、川崎市武蔵小杉のまちづくりでどういうふうにしたかっていうとやっぱりその熟議から、今まで隣同士知らなかったもの同士が集まって、でも1つの目標を掲げながら作っていったっていうのを知って、やっぱりやり方は教育ミニ集会を中心にしようかなと私は思っていますが、ただその場その場の地域でいろいろ違いますので、ただやっぱり校長としては学校の顔なので、とにかく地域を歩いて回ってその地域をいかに好きになるかっていうのは、校長としては大事なことだと思うのですよね。

何年居させてもらえるかわからないのですが、やっぱりこの地域を好きになって、その地域の住民の1人として、この子たちにどういうふうに育って欲しいかを一緒に考えるっていう、マインドセットアップを校長として、していくってことが大事かなと思います。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

他にどうですか。

じゃあ、事務局の方から、せっくなので何かあれば。

学務課長、どうぞ

学務課長

梅津先生、どうもありがとうございました。

ちょっと長尾委員の質問と関連するところもちよっとあるのですが、やっぱり先生たちの負担感は結構あるだろうなっていうことはもう想像がつくところです。

先生のこの資料の富勢小学校のやつの方がいいのかちよっとわからないのですが、やっぱり先生たちが話し合う時間が結構ありますよね。協議と

いうのか。その時間を捻出するために、いわゆる働き方改革的なことで、何か工夫されていることがあるのか。

これは中学校区が、同じように今やっているようなお話があったかと思うのですが、中学校はさらにこれは難しいところあるのではないかなと。

ただ柏市さんは部活動の地域移行が進んでいる部分があるので、それがあるからできているのか、そこら辺も聞かせていただけるとちょっとありがたいかなと思っています。

梅津氏

時間の捻出としましては、今の授業時数を確保するためには、基本的には週29時間29コマ、4年生は以上取らないと、確保できないのですけれども。まず文科省は35週で計算していますから、とにかく徹底的に計算をして、一応、本校では28コマ、1時間カットして、その時間で学年戦略会議を持つ時間という形で、学年に渡しています。

もう1つは、先ほど出したクラブ活動ですね、クラブ活動の時間を、地域に移行することによって、その空いた時間を職員研修ですとかそういう準備に使うっていう形に持っていく。

あと年間、土小学校の場合8日間、午前中で子どもたちを帰して、午後は研修とか、この総合的な学習の準備っていう形であてました。

それはもう時数を徹底的に計算して、やるっていう形で。さらに学年担任制という形で、ほぼ教科担任を入れているので、先生方がそれに合わせて時間割を組むっていう、ちょっと大変なことは聞いているかと思うのですが。

退勤時刻の平均っていうのを柏市は全部つけているのですけれども、うちの学校は、柏市平均よりは早く退勤をしておりますので、大丈夫かなと思います。

Y o u T u b e で流れているので嘘は言っていないです。

学務課長

ありがとうございます。そうすると週2日間は5時間授業だということですね。年間8日間は何とか授業時数を確保して、午前中で終わる日も設けていると。午前中終わりの時間、日程にしているのはどこかの学期に集中しているのですか。

梅津氏

研究・研修なんかとあわせてという形が多いですね。だから10月24日は授業研究の日っていう形にして、午前中で帰って午後は全部研修と、というような形でそういうのに合わせて。あとは教育課程創造会議を1月7日にやるのでこの日は午前中で返して、午後は先ほどの熟議ワークショップをやるっていう形で、もう年間ずっとそういう形をとるように、業務主任とか教頭に頑張ってもらって、私はやれと言っているだけ。

学務課長

中学校はどのようなのですか。

中学校についてわかる範囲でいいのですけれども。

梅津氏 なかなか難しいところはあると思います。ただ小学校は普通に改革をしていくことによって、中学校も変えていかなければというのを、その4校集まったミニ集会でやっている。

もう1つの富勢東小学校は100人の学校では全学年、教科担任制っていう形で、音楽は1年生から6年生も同じ先生がという形で、先生方、縦にも教科担任をやってみんなでみんなを見ていくっていうような形の改革を進められていたり、そういうのが集まってくるので、中学校の方も考えざるをえない状況が少しずつ出てきているのかなと思います。

学務課長 ありがとうございます。
もう1つ、ある先生に負担感が集中するってことはないのでしょうか。

梅津氏 それはないとは言い切れないと思いますが、先ほど示した中で、校務分掌をプロジェクト型にしています。ですので、この仕事とこの仕事はAプロジェクト、この仕事はBプロジェクト、そこに誰がということは、私の方で教頭と相談をして、人の割り振り仕事の割り振りはしました。そしてプロジェクトリーダーを決めます。ただそのあと、そのプロジェクトの仕事をいつ誰が中心になってやるか。

例えば、体育主任が運動会もやるし、水泳もやるし、運動能力テストもやるしというのは今まであったと思うのですが、体育主任が全体を把握しているものの、運動能力テストは何々先生やってください、水泳は外部委託になったのでその調整は何々先生やってくださいっていう形で、その時期によって自分たちで仕事を割り振っていくっていうふうな形で。要するに自分で考えて、よりよい仕事をどう進めていくかっていうことを、先生たちにはプロジェクト型校務分掌っていう形でお願いをしています。

学務課長 ありがとうございました。

藤代市長
(議長) 他に事務局で悩んでいる点なんかも、もしあればそれを踏まえつつ、どうですか。生涯学習課とか（いかがですか）。

生涯学習課
推進係 すみません、1点質問なのですが、この取り組みをするのにあたって教育委員会に求める支援とは、何かございますでしょうか。

梅津氏 そうですね。やっぱりヒト・モノ・カネですよ。
お金、コミュニティ・スクールとして使えるお金っていうのが。会社の場合もありますけれども、そこをどういうふうに使いたいからこれだけくださいっていうのが言いやすいようになって欲しいなというのと、やはりいろんなコミュニティ・スクールの情報を、横に展開をして、こんな学校でこういうふうにしていますよっていうようなことをですね。

私はよく兵庫県明石市の市教育委員会の関わり方がとても私はいいなと思ってはいるのですけれど。

それで、市全体でも熟議するような場面みたいなのを明石も作っている
ので、そういうことをやっていくと、いろんな人が集まるといいのではな
いかなと思うのです。学校運営協議会委員のメンバーというのは非常に熱
量がありますけれども、熱量がですね、ほどほどの方も一緒に交えて、「こ
んなことやっているんだ」、「じゃあ、やろう」、というようなところをいか
に引き上げるかっていうのが、それが私としてはミニ集会だと思うのです
けれども、同じようなことを、市が企画されてもいいかなというふうには思
っています。

生涯学習課
推進係

ありがとうございます。

藤代市長
(議長)

何か質問も答えも大分ストレートでしたね。

他にどうですか。

私からはいくつかあって、取り組み、内容、本当に素晴らしいなど、や
っぱり思ったのですね。

ただ、かなり現場の先生方がそのオーナーシップを持ってしっかりとや
っていかうという腹決めをした上で、相当程度のノウハウとは言わないで
すけれども、何ていうのですかね、このスモールな単位での議論の場も含
めて、慣れてない方々の方が多数なのだろうなっていう感じもありますし、
地域の方々も慣れてない方が多いはずなので、そういう方々を巻き込んで
いかうと思うと、結構、大変そうだなっていう印象があったのですがけれ
ども、我々この市役所と市教育委員会としてどういうことをしていくと、い
いのかっていう、それこそさっき冗談半分に休憩時間中に話したのが梅
津先生にうちの校長先生方と教頭先生方に研修・講演の場を持ってもら
ったらいいのではないかみたいなお話もありましたけれども、そのあたりい
かがですかね。

梅津氏

そうですね。

先生たちにその気になってもらう1つの手はやっぱり、私がここに来て
お話をするというのもそうですし、私もですね、先生たちを明石にも出張
させました。秋田の大館もすばらしいのでそこも出張させました。

やっぱりいい取り組みをしているところを見てももらったら、見てもら
うと変わります。こういうふうにしたいのだと、先生たちはみんな教育に
対する思いを持って先生になっていて、だけど、なかなか今本当に仕事も
増えてきているし、今の授業時数っていうのは、土曜日が6日間全部あつ
たときと全く同じ授業時数なのですよ。

それを5日間でやれと言っている。もうそもそもそこに無理がある。

だからやっぱり本当に先生方というのは負担が本当に上がってきている
中でも、自分はこういう教育をしたかったのだ、こんな子どもたちの姿
を作りたいのだ、っていうものややっぱり学校を見てもらって、こういう
ふうになればいいんだっていうものをですね、掴んでそれを持ってきて、

自分の学校なりに変えていくっていうのが、先生たちを動かしていった原動力の1つかなと思います。

やれと言われてやったじゃやっぱりなかなか動かないので、出張旅費を市教育委員会が出してくれると。県費負担教職員の出張旅費をですね、研修費として出してくれるといいなと思います。

藤代市長
(議長)

まだ出せるようになっていないのでしたっけ。いつから出すようになるのでしたっけ。

成田市さんとか出しているって話でしたよね。企画財政部の方で何かを把握していますか。議会でかけますので、これ結構本当に課題だったのですよ。

うちも研修視察で先生方にいろいろ行っただきたかったのですが、県費の職員の方々なので出さないという話があったのですが。

どうにか突破できそうです。

ちなみに研修とかって、どのタイミングで行かれるのですか。先生方って普段、学校があるわけじゃないですか。だから夏休み中に行くと、向こう側は逆に何も授業やってなかったりするじゃないですか。そういうのってどうされているのですか。

梅津氏

もう普段の時間に行ってもらようにします。

まず、それも学級担任制だとなかなか、1つの学級に負担がかかっちゃうので、学年担任、教科担任していると。

この2日間、名古屋に行っただかということができるようになりますし、それはまた帰ってきてフィードバックがね、そうかっていうのがあればまた先生たちもお互い協力し合っていたような気がします。

藤代市長
(議長)

なるほど。それはこれから検討可能そうですか。教育部長からも可能ということのようです。

他にいかがですかね、教育長、いかがですか。いろいろとメモを取られていました。

渡邊教育長

梅津先生ありがとうございました。

先ほども休憩時間でもいろいろ話をさせていただきましたけど、まず先生の講演の中で冒頭レガッタとラフティングの話、非常にわかりやすいな、これからの授業社会っていうのを、説明していただいて、本当にこれは誰にもわかるようなお話で、そこから始めていただいてですね。途中でやはりこれも始めの方でしたけど、やっぱりミニ集会を活用するっていう、そこは先生の1つの肝であって、そこでやはり校長先生がある程度4月中旬に示した目指す姿っていうところを、まず職員が熟議するっていうところですね、ここは非常にやっぱり大事なところなのかなって。

やっぱり校長先生からのトップダウンで、これでやるぞっていうのはどうしてもやらされ感っていいですかね。そんなものは残ってしまうと思う

のですけれども、そこをまず職員が熟議して、8月までにそこを準備して、というところでまさに先ほど途中でおっしゃいましたけど、これは教員の働きがいになるのだらうなっていうふうなことで本当に勉強になりました。

またそのミニ集会で地域の方々にも同じように、自分たちが参画しているのだというようなことも味わっていただけるのだなというようなところですかね。

それと市教委の関わりっていうところも先ほどいろいろありましたけれども、何せ先生から、ご教示いただいた参考になるような、各地の市教委ですとか、自治体の取り組み、これからもう1回勉強させていただきたいかなというふうに思いました。

あとは先ほど市長が言ったのですけれども、やっぱり校長先生のリーダーシップってすごく大事ななっていうふうに。

そうすると、梅津先生みたいなところには到底いけないと思うのですけれども、校長が中心になってこれをやっていく上で、校長たちにどう意識を高めていただけるかっていうのは課題かなというふうに1つ思ったところなのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

梅津氏

そうですね。

私も校長会等で話をしたりとかしますが、校長先生もいろんなお考えがありますから。でも、やっぱり自分としてどんな学校にしたいかっていうのは必ずお持ちだと思うのですよね。

その学校をどう実現するかっていうプランを、それを本当に教育長先生への目標申告とかで語られて、それを教育委員会がバックアップしてくれて、地域の学校と協働していくっていう。そういう当たり前のことをきちんと当たり前にやりながら。

本当に最初は大変です。小さな変化しかないし、風当たりも当然強いですし。でもやっぱり、「向かい風じゃなければ前に進まないんだぞ」って。ヨット乗りだった前の柏の川島教育長がおっしゃっていて、そうだな、要するに向かい風に向かうっていう、これが校長のリーダーシップなのかなって。

それが、やがて強い向かい風だけじゃなくてね、やっぱりこうバーッと押してくれる方が増えてくるかなというふうに思います。

お答えになっていないので、あれですけど。

藤代市長
(議長)

今の点を踏まえて教育長いかがでしょうか。

渡邊教育長

本当ありがとうございました。

確かに結局、どういう学校を作りたいかっていうのと同じで、どういうこどもたちを育てていきたいかっていうところに向かっていく中で、当然先生がおっしゃるような、なんかやろうとすれば、向かい風があって、で

すけど先生今おっしゃったように続けていけば、リーダーシップも続けていけば追い風が吹いてくるっていうような、そんなお話はすごく感銘を受けました。

それをじゃあ今度、市教委としてどんなふうに学校を、校長先生を支援していけるかっていうのはよく考えていきたいなと思いました。

いいお話ありがとうございました。

藤代市長
(議長)

あと8分ぐらいですかね。

各教育委員の皆さんから、何か今日の感想であるとかも含めて何かコメントあればいただいて。

屋敷さんは、それこそ、今日ってこの印西市の中でもいろんな地区の方々がいらっしゃっていて、屋敷さんは本埜地区っていう旧本埜村のエリアで、PTAの会長なんかも務められている、まさにこのコミュニティ活動、コミュニティ・スクールの中核を担っていくような方になっていくと思うのですけれども、そういった立場からでも構わないですし、ぜひ。

屋敷委員

梅津先生ありがとうございました。

ミニ集会にしても、学校行事にしても人を集めるのってすごく大変なことなのかなって自分は思います。特にうちのような過疎地区になると、なんていうか生徒数も少ないので当然保護者の数も少ない。

人集めの労力ってすごく大変なのだろうなと思いながら、自分は聞いていたのですけど、何か先生が人を集めたり、人を動かすのに、何か特別気を使われたようなことがあれば教えていただけますでしょうか。

梅津氏

実際に集めていただいているのは地域の地域学活動協働推進員っていう方が柏市の場合、各2名まで認められているのですが、その方、どちらも1つは民生委員の方とか、青少年相談員の方とか、もともと地域でいろんな活動をされて、人望の厚い方をお願いをして。その方にいついつこういうことがあるのですけど、ちょっとこういうチラシを作ったので、回って集めてもらえませんかという形をお願いをして。

最近はそのようなものをLINEのオープンチャットっていうような形のものを機能させて、やりとりをしたりとか。学校の先生がそれをやるのも大変なので、スクールサポートスタッフっていう、国の事業でいろんな形で学校の仕事をサポートする人。うちは2名配置されているので、うちの1名を一応学年からの要望を聞いて、その地域学校協働推進員に投げかけて、地域学校協働推進員から上がってきたものを学校の先生に戻すっていうような形を、どうしてもそういう教頭がやったり、教務主任がやったりってことになりがちなのですが、そこにSSSと言われているスクールサポートスタッフを絡めて、先生の負担軽減しながらやっているっていう形で。

やっぱり地域の人望のある方をお願いするっていうのがあると思います。

藤代市長
(議長)

屋敷さんが頑張ると。屋敷さんのお力をお借りするってことですかね。本埜中学校区でもやっぱり何名かいらっしゃいますよね、そういう方々がね。ただ、おっしゃる通りで、徐々に人口が減っている中でそういう方々も、徐々にこう歳をとられているっていうのは、実はあったりするのですけれども、その中にあっても、そういう方を見つけていくってことなのか、数は少なかったとしても。

他はよろしいですか。

あと5分ぐらいあるので、私の方から総括的なコメントをした後に最後、梅津先生からコメントいただいて、締めたいかなと思います。

かなり想像していたところよりも踏み込まれているのだなっていうのが、今日は私たちがお話を伺っていたときの印象なのですね。

何となく地域のいろんな方々がやっているイベントとか、教室とか活動とかに少しこどもたちが関わらせていただくってようなものかなと想像したのですが、それを超えて、探究学習の中でしっかりとこどもたちと先生方が地域に入っていくって、地域の人と繋がりながら課題とか可能性を見出していった中で1つ1つ事業を組み立てていくっていうのは、これ相当すごいことだなと思いましたし、その手前のところで、やっぱり肝になるのが、そのビジョンを作るってところですね。学校経営のビジョンのところを、先生方とちゃんと熟議をしながら、スモールなこのグループでまずは議論されて、それを地域の方々とも一緒に議論してっていうこの段階を経られながら、作っていかれるというのは、もうかなり僕らの想像のはるか先を行かれていたなっていう印象があります。

ただ、これが本来的にはこの地域の方々と一緒に学校を作っていく、さらに言うと、先生方とこどもたちと一緒に学校を作っていくっていうことはそういうことなのだなということを我々は今日学んだのだな、というところがあります。

ただ、なかなかどこから手をつけていいかというのは我々も今すごく悩んでいるところではあるのですが、まずは何かこれから各学校区でコミュニティ・スクールを立ち上げていっていただくときに、まずは先生方、中心になる方々に、今日の梅津先生の講演とこのやりとりをまずは見ていただくということが1つ大きいのかなと思いますし、その上で実際に立ち上げるときに先生方は時間がないとは思いますが、特に校長先生教頭先生方ですね、やっぱり視察で、柏市さんでもいいかと思いますしそれ以外の自治体さんも含めて、やっぱり1回見に行ってくださいってことを最初にやることで、かなり発射台が変わるのではないかなと思いますので、今回条例も改正されるってことでよかったですかね。多分改正されますので、研修費も少し出るかと思いますので。

そのあたりを活用していただきながら、少し入口の発射台を高めるっていうところは我々としては、まずできることなのかなと思ったところですね。

あとは実際に進める中で、市の教育委員会とか市の市役所の側がどうこうっていうことよりも、校長先生方教頭先生方のニーズを聞きながら、多

分ヒト・モノ・カネっていうときにも、出し方って現場のニーズがあるはずなので、それをきめ細かに捉えながら、手当をしていくっていうことなのかというのは感じたところですね。

でも私も全市回っていてやれる感じはあるのですよね。印西市、結構意外に地域活動されている方が多いじゃないですか。ニュータウンも結構いらっしゃるのですよ。

ここにいらっしゃる方々もまさに、そういう方々に教育委員になっていただいていますし、なのでやりようはあると思うのですが、やっぱり組み立て方はちょっともう1回、今日のお話を踏まえて考え直そうというところを思ったところですね。

ただ、今日本当にお話を伺えてよかったのが、我々が1つ目指す姿というのですかね、何となく多分担当課も含めて、どこに向かっていったらいいのかって結構悩む場面が多い感じがあったのだと思うのですが、1つ何かこういう姿というのがあるのだなというのを明確に知ることができたので、そういう意味では本当に今日この2時間で我々のこの、何て言うかね、理解度とか思考というのは相当深まったのではないかなと思うので、改めて本当に感謝を申し上げたいと思います。

というところで、最後先生から一言いただいて、ちょうどあと2分ぐらい残っていますので。

梅津氏

はい。どうも今日はありがとうございました。

このような貴重な機会をいただいて本当ありがとうございます。

私、いろいろなことを考えている、根本は何かと思うのですね、やっぱり学校っていうのは、1丁目1番地が授業です。

授業が楽しい、そしてその授業が魅力的であれば、どんどん増えている不登校のこどもたちも学校に来るでしょうし、そして今、私たちは求められているのは、いわゆる非認知能力をいかに育てていくかっていうことが言われています。要するに計算ができるとか、認知能力、テストで測れる力をどれだけつけても、この先の世の中はなかなか難しいだろうと。そうなったときに、学校の先生は、今盛んに、文科省なんか「伴走者」っていうのですね、学校の先生は伴走者になっていくと。

私も先生たちに、黒板を背にして先生が話をして先生の方をこどもたちがみんな向いて、授業しているって、この150年変わらないこの授業の姿で、これからの世の中を変えていく授業はできますか。もういろんなものが変わっているのに授業のスタイルだけは変わらない。それが、親も学校の授業参観に来て、こどもがそうやって黙って先生の話の聞いていると、「うちの子しっかり勉強していいわ」って思う。

でもそれって違うのですよね。

もうこれだけ世の中が変わってきているわけですから、学校の授業ももっと変わらなきゃならない。

そうしたときに、学校の先生だけでは無理です。

やはりそこに入ってきていただきたいのは、地域の方々や専門家やいろ

いゝな方々。で、その大人が増えれば増えるほどこどもたちの多様性に対応ができてくる。で、こどもたちにテストの力と同時にですね、やはりやり抜こうとしたり、挑戦しようとする。そこにやっぱり大人の言葉だけがあったり、そういう中で育てていく。

それが大人の方もそういう関わりへこどもとやっていって「おじいちゃんよかったよ」って言うてくれて、それが生きがいに繋がっていくっていう、やはり学校を核とした大人もこどもを学んでいくっていう姿をどう作っていくか。それは人口が増えている都市部と農村部と違うと思うんですけども、やっぱりそれをいかに目指していくか、コミュニティ・スクールのあり方だし、そこのポリシーを大事にして、取り組んでいくってことが大事かなというふうに思います。

今日は貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました。また印西市の実践から学んでいきたいと申します。

どうもお世話になりました、ありがとうございました。

藤代市長
(議長)

はい。事務局の方に戻します。

企画政策課長

ありがとうございました。

なお、傍聴の皆様、Y o u T u b e 配信をご覧の皆様には本日の会議に関するアンケートの方にご協力をお願いいたします。

Y o u T u b e 配信ご覧の皆様は、概要欄にリンクがございますので、そちらからご回答の方よろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして、令和7年度第5回印西市総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でございました。

(午後4時30分)

印西市総合教育会議設置要綱第8条の規定により、上記会議録は、事実と相違ないことをここに承認する。

令和7年11月12日

印西市教育委員会委員

豊田 光弘